

◎ 指示があるまで開かないこと。

(令和4年2月10日 10時40分～12時00分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は55問で解答時間は正味1時間20分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例1)、(例2)及び(例3)の問題では1から4までの4つの選択肢、もしくは1から5までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)、(例2)では1つ、(例3)では2つ選び答案用紙に記入すること。
 なお、(例1)、(例2)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例3)の質問には、1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
		↓		
101	①	②	③	●

答案用紙②の場合、

101		101
①		①
②		②
③	→	③
④		●

(例 2)

102 保健師助産師看護師法が制定された年はどれか。

1. 明治 32 年(1899 年)
2. 大正 4 年(1915 年)
3. 昭和 23 年(1948 年)
4. 昭和 43 年(1968 年)
5. 平成 13 年(2001 年)

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
102	①	②	③	④	⑤	102	102	①	①	
			↓					②	②	
102	①	②	●	④	⑤			③	→	●
								④	④	
								⑤	⑤	

(例 3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
103	①	②	③	④	⑤	103	103	①	●	
			↓					②	②	
103	●	②	③	④	●			③	→	③
								④	④	
								⑤	●	

(2) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：①②%

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	0	1	2	3	4	5	6	7	8	●
104	●	1	2	3	4	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

①	②
0	●
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
●	9

1 平成 27 年(2015 年) 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の目標 3「健康と幸福度」における 2030 年までの達成基準で正しいのはどれか。

1. 新生児および 5 歳未満児の予防可能な死を根絶する。
2. 世界の乳児の死亡率を出生 1,000 人当たり 50 人未満に削減する。
3. 世界の妊産婦の死亡率を出生 10 万人当たり 100 人未満に削減する。
4. 性と生殖に関する保健サービスを全対象者の 7 割が利用できるようにする。

2 放射線被ばくの時期と児への影響との組合せで正しいのはどれか。

1. 妊娠 3 週 ————— 中枢神経障害
2. 妊娠 8 週 ————— 胎児奇形
3. 妊娠 15 週 ————— 流 産
4. 妊娠 35 週 ————— 精神発達遅滞

3 家族計画について正しいのはどれか。

1. 子宮内避妊具は助産師が挿入できる。
2. 受胎調節のひとつに人工妊娠中絶がある。
3. 避妊薬の品質は母体保護法に規定されている。
4. 受胎調節実地指導員は母体保護法に規定されている。

4 妊娠中の梅毒スクリーニング検査の説明で正しいのはどれか。

1. 妊娠中期に行う。
2. 子宮頸管から検体を採取する。
3. 陽性判明後 14 日以内に保健センターに届け出る。
4. 非特異的検査と抗原特異的検査を組み合わせて行う。

5 Aさん(28歳、1回経産婦)は現在、妊娠18週である。第1子は分娩後に先天性心疾患と診断され緊急手術を受けた。Aさんは「今回も上の子と同じ病気が起こるのでないか」と心配し、出生前診断を希望している。第1子は心臓以外に異常の指摘はない。

Aさんの心配の解消に最も寄与する出生前診断の方法はどれか。

1. 絨毛検査
2. 羊水検査
3. 胎児超音波検査
4. 母体血清マーカー検査

6 着床について正しいのはどれか。

1. 受精後1週で完了する。
2. 桑実胚の状態に着床する。
3. 子宮内膜が着床に適しているのは分泌期である。
4. 着床後は脱落膜からプロゲステロンが分泌される。

7 胎児の呼吸器系の発生で正しいのはどれか。

1. 肺水の組成は羊水とは異なる。
2. 肺胞は在胎30週ころに完成する。
3. 在胎10週には呼吸細気管支の分枝が完成する。
4. 肺サーファクタントの分泌は在胎30週ころがピークである。

8 卵膜の構造と機能について正しいのはどれか。

1. 羊水の一部を産生・吸収する。
2. 胎児側の表面はざらざらしている。
3. 被包脱落膜と基底脱落膜は癒合して卵膜を形成する。
4. 母体側から順に、絨毛膜、脱落膜、羊膜の3層からなる。

9 Aさん(32歳、初産婦)は既往歴・家族歴ともに特記すべきことはなく、妊娠経過に異常はない。妊娠37週に妊婦健康診査のため助産師外来を受診した。

Aさんの状態について現時点で医師への報告が必要な情報はどれか。

1. 子宮底 28 cm
2. 粘液性の血性分泌物を少量排出
3. 断続的な10～15分の弱い子宮収縮
4. ノンストレステスト(NST)で胎児の一過性頻脈が20分間に2回

10 Aさん(16歳、初産婦)は妊娠16週である。近隣の診療所からの紹介で、妊婦健康診査と分娩の予約のため病院の産科外来を1人で受診した。

このときの情報収集で最も優先されるのはどれか。

1. 就学の状況
2. 家族との関係
3. バースプラン
4. 胎動自覚の有無

11 Aさん(30歳、1回経産婦)は28歳のときに子宮鏡下手術によって子宮粘膜下筋腫を切除した。妊娠39週6日で自然破水、破水後1日経過したが陣痛発生せず、子宮収縮薬の点滴静脈注射による分娩誘発を開始した。開始後6時間、Aさんは突然激しい腹痛を訴え、その後、陣痛が減弱した。顔面蒼白となり呼吸が速くなった。胎児心拍数陣痛図では変動一過性徐脈が出現した後、高度徐脈となった。内診所見は、子宮口全開大、Station +2で、異常な腔からの出血はみられなかった。

このときのAさんの状態で最も考えられるのはどれか。

1. 子宮内反
2. 子宮破裂
3. 腔壁裂傷
4. 常位胎盤早期剝離

12 Aさん(32歳、1回経産婦)は本日午前11時に3,100gの児を正常分娩した。分娩所要時間は7時間30分で出血量は150mL。分娩後1時間経過した時点で「上の子のお産は丸1日かかりました。やはり2回目は早いですね」と話した。体温37.0℃、脈拍84/分、血圧122/66mmHg。出血量は25mL、子宮底は臍高で硬度は良好だった。尿意はまだない。

この時のAさんへの助産ケアで適切なのはどれか。

1. 睡眠を促す。
2. 導尿を行う。
3. 腹帯を強く締める。
4. 食事や水分摂取を促す。

13 産褥 20 日の褥婦。「子どもが右側の乳頭ばかりを吸うので、左側の乳汁分泌が悪くなった」と話す。

関係するメカニズムはどれか。

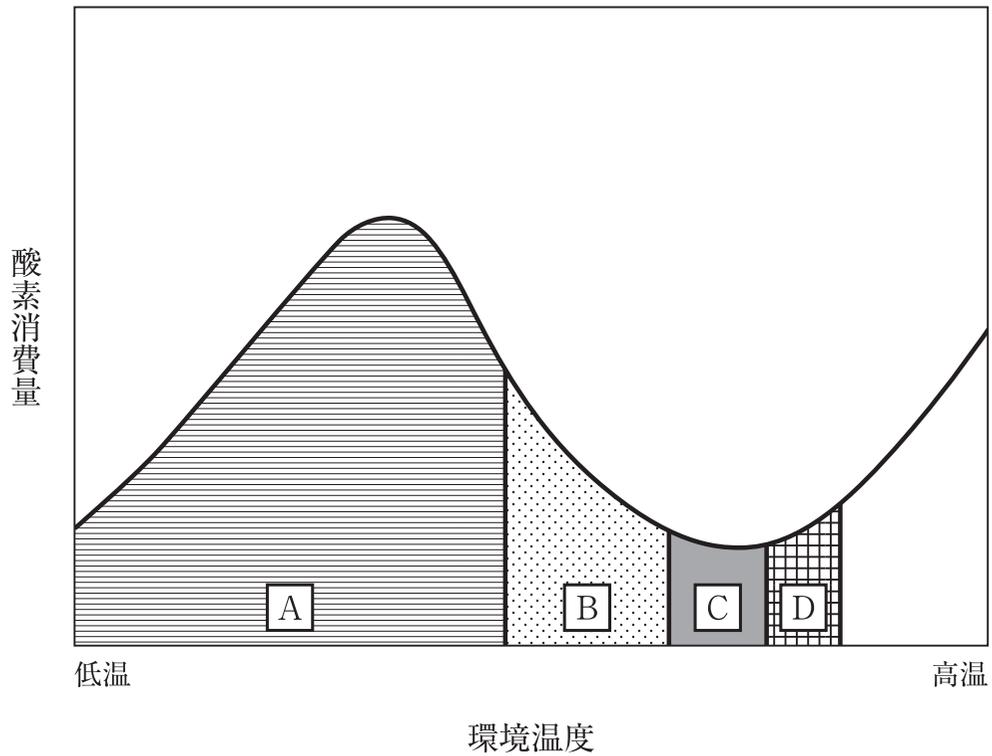
1. エンドクリンコントロール
2. オートクリンコントロール
3. 腺房細胞の分泌細胞への分化
4. エストロゲンによる乳管系の増殖

14 在胎 38 週 3 日、正常分娩で出生した女児。Apgar〈アプガー〉スコア 9 点、体重 3,000 g。出生後 20 時間、直腸温は 36.8℃、呼吸数 40/分、心拍数 145/分。

このときの児の胎外生活への適応状態として異常所見はどれか。

1. 胎便の排出がない。
2. 体重が 90 g 減少した。
3. レンガ色の排尿があった。
4. 体幹にチアノーゼが見られる。

15 新生児における酸素消費量と環境温度の関係を図に示す。



中性温度環境はどれか。

1. A
2. B
3. C
4. D

16 新生児低血糖のため輸液療法中の児。

全身状態の観察をする際、低血糖症状の増悪を疑う所見はどれか。

1. 振 戦
2. 発 熱
3. 発 疹
4. 筋緊張亢進

- 17 日本の平成 30 年(2018 年)の早期新生児死亡で正しいのはどれか。
1. 周産期死亡の 8 割を占める。
 2. 新生児死亡数の 3 割を占める。
 3. 死亡原因の第 1 位は敗血症である。
 4. 死亡率は出生 1,000 に対して 0.7 である。
- 18 児童虐待の防止等に関する法律〈児童虐待防止法〉で規定されているのはどれか。
1. 児童相談所への看護師の配置
 2. 特定妊婦に対する養育支援訪問
 3. 心身の危険がある児童の一時保護
 4. 保護者に対する施設入所等の措置となった児童との面会の制限
- 19 助産業務と規定する法律の組合せで正しいのはどれか。
1. 臍帯切断 ————— 保健師助産師看護師法
 2. 臨時応急の手当 ————— 母子保健法
 3. 妊産婦の訪問指導 ————— 母体保護法
 4. 助産所に関する広告 ————— 地域保健法
- 20 出生届について正しいのはどれか。
1. 母子保健法に規定されている。
 2. 出生の年月日時分及び場所を記入する欄がある。
 3. 子の両親以外の代理人が届け出ることにはできない。
 4. 出生の日から 7 日以内に届け出るよう規定されている。

21 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律〈育児・介護休業法〉に規定されている制度で正しいのはどれか。

1. 専業主婦の配偶者は育児休業を申請できない。
2. 育児休業は出産日から起算して1年まで取得できる。
3. 子の看護休暇は就学前の子を養育する労働者が取得できる。
4. パパ・ママ育休プラスは夫婦がそれぞれ1年2か月育児休業を取得できる。

22 感染予防のための標準予防策〈スタンダードプリコーション〉として適切なのはどれか。

1. 悪露交換時は手袋を着用する。
2. 産褥期の乳房ケアは素手で実施する。
3. 新生児のケアではN95マスクを装着する。
4. 分娩介助時は使い捨てエプロンを着用する。

23 震度6強の大規模地震が発生し、被災地で多くの家屋が損壊した。公共交通機関の運行は停止し、主要道路の損傷によって複数地域で通行不能が生じている。一時避難所が開設されて家屋が損壊した住民の受け入れが行われた。避難者の中には妊婦が複数含まれていたが、身体的不調の訴えはない。

被災した妊婦のための初期対応で適切なのはどれか。

1. 母体搬送が可能な周産期医療施設の情報を収集する。
2. かかりつけの産婦人科に早急に受診するよう妊婦に勧める。
3. 妊婦には避難所内でなるべく安静にするよう妊婦に伝える。
4. 母子健康手帳を持参していない妊婦は特定妊婦として扱う。

24 妊娠による母体の泌尿器系の変化で正しいのはどれか。

1. 妊娠後期の尿の流出障害が左側に起こりやすい。
2. 尿素窒素の値が非妊時より高値を示す。
3. 糸球体濾過率〈GFR〉が低下する。
4. 尿細管での再吸収能が低下する。
5. 尿管の緊張が増す。

25 日本人の正常新生児において、生理的黄疸が最も顕著になる時期として適切なのはどれか。

1. 生後 6 時間
2. 生後 24 時間
3. 日齢 4
4. 日齢 14
5. 日齢 28

26 更年期障害に対する治療としてホルモン補充療法が禁忌となるのはどれか。

1. 深部静脈血栓症の既往
2. 子宮頸部異形成
3. 高脂血症
4. 骨粗鬆症
5. 喘息

27 妊娠中のヒトパルボウイルス B19 感染による児への影響で正しいのはどれか。

1. 貧血
2. 結膜炎
3. 心奇形
4. 水頭症
5. 内耳性難聴

28 37歳の初産婦。妊娠40週3日に陣痛発来で入院した。子宮口5cm開大ころから努責感が抑制できず、陣痛発作時にいきんでいたところ、子宮口8cm開大から急激に全開大となり分娩に至った。会陰右側切開術を施行。児の娩出直後から膣口から鮮紅色の出血が持続的にある。胎盤娩出後の子宮底は臍下3横指で硬く触れる。子宮底を圧迫して凝血塊の排出は認められない。

このときの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 会陰切開部に裂傷がないか確認する。
2. 子宮底輪状マッサージをする。
3. 頸管把持鉗子を準備する。
4. 子宮収縮薬を準備する。
5. 導尿する。

29 Aさん(27歳、初産婦)は身長160cm、非妊時体重58kgである。妊娠39週5日で、3,560gの男児を正常分娩した。分娩時出血量は300mL、産後2日の採血でHb11.0g/dLであった。授乳は1日8~10回行っている。

Aさんに推奨される1日の栄養付加量で正しいのはどれか。

1. 葉酸 10 μ g
2. 鉄分 10 mg
3. タンパク質 5 g
4. カルシウム 300 mg
5. エネルギー 350 kcal

30 Aさん(28歳、初産婦)はFallot<ファロー>四徴症があり、幼少時に心臓の修復手術を受けた既往がある。学生時代にはスポーツの部活動は避けていたが、軽い運動や日常生活において特に問題を生じることなく生活していた。正常血圧で服薬はしていない。自然妊娠して産婦人科医院を受診し、妊娠6週の診断となった。

助産師がAさんに話す内容で適切なのはどれか。

1. 「妊娠中は積極的に運動しましょう」
2. 「赤ちゃんに心臓の病気が生じる心配はありません」
3. 「妊娠後半に心臓への負担が大きくなります」
4. 「お産は帝王切開で行われます」
5. 「母乳育児はできません」

31 在胎 38 週 2 日、2,640 g で出生した男児。第 5 指中節骨異形成、房室中隔欠損、十二指腸閉鎖を認めた。

最も考えられるのはどれか。

1. 13 トリソミー
2. 18 トリソミー
3. 21 トリソミー
4. Potter〈ポッター〉症候群
5. Turner〈ターナー〉症候群

32 生後 18 時間の男児。在胎 41 週 0 日、出生体重 4,250 g で出生した。全身状態は良好で、哺乳を開始しており、哺乳力も問題ない。診察時、Moro〈モロー〉反射が左右非対称で左の反射が欠如していた。上肢の触診で特定の場所を痛がる様子はなく、局所性の発赤・腫脹も認めない。

次に確認する児の所見で最も重要なのはどれか。

1. 手掌把握反射
2. スカーフ徴候
3. 引き起こし反射
4. Landau〈ランドー〉反射
5. Babinski〈バビンスキー〉反射

33 百日咳で正しいのはどれか。

1. 飛沫感染する。
2. 抗菌薬投与は無効である。
3. 特徴的な症状に犬吠様咳嗽がある。
4. インフルエンザ菌 b 型の感染症である。
5. 新生児期の感染例は重症化するリスクがない。

34 卵管性不妊の原因となるのはどれか。2つ選べ。

1. 淋菌
2. カンジダ菌
3. トリコモナス原虫
4. サイトメガロウイルス
5. クラミジアトラコマティス

35 骨盤隔膜を形成している筋はどれか。2つ選べ。

1. 大殿筋
2. 尾骨筋
3. 梨状筋
4. 肛門挙筋
5. 外肛門括約筋

36 妊娠前のBMIが18.5未満であった妊婦に出現しやすいのはどれか。2つ選べ。

1. 貧血
2. 切迫早産
3. 妊娠糖尿病
4. 羊水過多症
5. 妊娠高血圧症候群

37 妊娠初期の経膈超音波検査に関する記述で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 妊娠3週では胎嚢が観察できない。
2. 妊娠5週では胎児心拍動が観察できる。
3. 妊娠8～9週の頭殿長は妊娠週数確定に有用である。
4. 妊娠9週で臍帯ヘルニアが観察できるのは正常範囲である。
5. 妊娠10週の頭殿長は10 mmである。

38 日本で行われている新生児の先天性代謝異常等マススクリーニング検査の対象はどれか。2つ選べ。

1. ケトン性低血糖
2. 先天性副腎過形成
3. アセトン血性嘔吐症
4. フェニルケトン尿症
5. Wilson〈ウイルソン〉病

39 世界保健機関〈WHO〉と国際連合児童基金〈UNICEF〉によって、適切な人工乳が準備できる状況下では母乳を与えないことが推奨されているのはどれか。2つ選べ。

1. 化学療法中の乳癌
2. HIV 感染
3. B型肝炎
4. C型肝炎
5. 結核

40 Aさん(32歳、初産婦)は妊娠40週6日、自然陣痛発来後に入院した。分娩は順調に進行し児頭が娩出されたが、第4回旋の後に助産師が前在肩甲の娩出を試みたところ娩出が困難な状況となった。

このときの助産師の対応で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 児頭を膈内に押し戻す。
2. 恥骨直上の腹壁を圧迫する。
3. 児頭の下方向への牽引を強める。
4. 努責を強めるようAさんに言う。
5. Aさんの両側股関節を強く屈曲する。

次の文を読み 41～43 の問いに答えよ。

A 病院は、出産前準備教育の集団指導として「お産の教室」を対面で行っていたが、オンライン形式で実施して欲しいという要望が多くなり、今年から導入することにした。「お産の教室」の企画書を表に示す。

実施日時	2022 年 X 月 X 日(土)14:00～15:00
対象者	妊娠 30 週～34 週の初産婦と、出産立ち会いを希望しているパートナーのカップル(10 組)
目 標	1. 分娩開始徴候および分娩経過が理解できる。 2. 産痛緩和の方法を理解し、実施できる。 3. カップルで主体的に分娩に臨むことができる。
内 容	1. 自己紹介 2. 分娩開始徴候および分娩経過の説明 3. 産痛緩和法の機序の説明と圧迫法の演習 4. 質疑応答
評価方法	1. 参加者の言動を観察する。 2. 終了後にアンケートを実施する。

41 パートナーの準備性を把握するために最も優先される情報はどれか。

1. 健康状態
2. 就労状況
3. 出産立ち会いの動機
4. 育児休業の取得予定の有無

42 オンラインによる「お産の教室」は3名の助産師で運営し、パンフレットは参加者に事前に送付されている。教室には10組のカップルが自宅から参加し、助産師と参加者が顔をみながら双方向でコミュニケーションが取れている。助産師はプログラムに沿ってパンフレットを読みながら産痛緩和法について説明を行い、その後、圧迫法の演習を行うことにした。

演習を行うにあたり圧迫法をイメージしてもらうために最も有効なのはどれか。

1. 助産師のデモンストレーションを見てもらう。
2. パンフレットをカップルに再確認してもらう。
3. 1組のカップルに実演してもらう。
4. 圧迫法に関する質問を受ける。

43 「お産の教室」後、参加した妊婦から、「教室に参加してから、パートナーと出産や育児のことを話す機会が多くなりました」という感想が多く寄せられた。教室を運営した助産師は、オンラインで実施した産痛緩和法(圧迫法)の評価をするために、出産後に情報収集することにした。

産痛緩和法(圧迫法)の評価をするために情報収集する項目で適切なのはどれか。

1. 分娩様式
2. 分娩所要時間
3. 出産立ち会いの有無
4. パートナーによる産痛緩和の実施状況

次の文を読み 44～46 の問いに答えよ。

Aさん(38歳、初産婦)は妊娠40週3日。胎児心拍数陣痛図で変動一過性徐脈を認め、吸引分娩で3,800gの男児を出生した。出生直後の児は、啼泣がなく、筋緊張は低下し、羊水混濁は認めなかった。直ちに蘇生を行った。バッグ・マスク換気による人工呼吸を継続していたところ、上腹部の腹部膨満を認めたため、胃管を挿入することとした。

44 胃管挿入の手技として正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 鼻から挿入する。
2. 胃管を自然開放する。
3. 4Frの胃管を選択する。
4. 胃内容物の吸引を避ける。
5. 鼻の付け根から外耳孔までの長さとし、外耳孔から剣状突起と臍の間までの長さを足した長さを挿入する。

45 児は生後5分で自発呼吸が出現したが、呻吟、多呼吸、中心性チアノーゼを認めた。保育器内酸素30%を使用し、NICUに入院した。児のApgar〈アプガー〉スコアは1分後2点、5分後7点であった。生後1時間の児のバイタルサインは、体温37.0℃、呼吸数80/分、心拍数150/分、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉98%。血液ガス分析(room air)は、pH 7.30、PCO₂ 42.0 mmHg、HCO₃⁻ 20 mEq/Lである。児の胸部エックス線(別冊No. 1)を別に示す。

考えられる病態はどれか。

1. 気胸
2. 呼吸窮迫症候群
3. 新生児一過性多呼吸
4. 新生児遷延性肺高血圧症

別冊 No. 1

46 日齢2。血清ビリルビン値16.5 mg/dLとなり光線療法が開始された。

Aさんへの児についての説明で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 「沐浴を控えます」
2. 「便の排泄を促します」
3. 「水分摂取を制限します」
4. 「母乳の摂取を制限します」
5. 「オムツで性腺を保護します」

次の文を読み 47～49 の問いに答えよ。

A さん(40 歳、初産婦)は産婦人科病院で妊婦健康診査を受けていた。妊娠 32 週までの妊娠経過に異常はなかった。妊娠 36 週以降に血圧の上昇傾向があり、妊娠 37 週から尿蛋白が確認されたため、妊娠 38 週 2 日に入院して分娩誘発の予定となった。

妊娠 34 週から妊娠 38 週の妊婦健康診査のデータを表に示す。

妊娠週日	血 圧 (mmHg)	尿蛋白 (試験紙)	子宮口の状態	胎児推定体重 (g)	羊水量
34 週 2 日	130/78	—	子宮口：閉鎖 展退度：30 % 未満	2,150	正常
36 週 3 日	137/89	±	子宮口：閉鎖 展退度：30 % 未満	2,380	正常
37 週 2 日	135/87	+	子宮口：1.5 cm 開大 展退度：40 %	2,450	少ない
38 週 1 日	143/91	+	子宮口：2 cm 開大 展退度：40 %	2,580	少ない

47 分娩誘発に関する A さんへの説明で正しいのはどれか。

1. 「病棟内を歩いて陣痛を開始しやすくします」
2. 「陣痛開始前に人工破膜を行います」
3. 「子宮口を開くための処置を行います」
4. 「子宮収縮薬の点滴は最大量で投与を開始します」
5. 「陣痛が強くなってから分娩監視装置を装着します」

48 Aさんは予定通り入院した。入院翌日の妊娠38週3日の朝からオキシトシンの点滴静脈内注射が開始され、午前10時に陣痛が発来した。Aさんはやや苦しそうな表情で陣痛に耐えており、助産師は呼吸法の指導を行っていた。午後2時30分、体温37.2℃、脈拍85/分、血圧165/95 mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)98%(room air)である。突然胎児心拍数の低下が確認された。内診を行ったところ、子宮口5 cm、展退度70%、Station ±0、既に破水しており、臍帯脱出はない。このときの胎児心拍数陣痛図(別冊No. 2)を別に示す。

胎児心拍数低下の発生後直ちに実施することで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. Aさんに努責を促す。
2. Aさんに酸素投与を行う。
3. 内診で児頭を押し上げる。
4. Aさんの両下肢を挙上する。
5. オキシトシンの点滴静脈内注射を中止する。

別 冊

No. 2

49 胎児心拍数の低下への対応を行ったが改善することはなく、助産師はAさんの状態を確認するために声をかけた。そのとき、Aさんは突然両手を小刻みに震わせており意識レベルが低下していることに助産師は気が付いた。助産師の連絡で産婦人科医が駆け付けた。

このときに行われることで適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 吸引分娩の実施
2. 抗痙攣薬の投与
3. 硬膜外麻酔の準備
4. 硫酸マグネシウムの投与
5. プロスタグランジン F_{2α} の点滴

次の文を読み 50～52 の問いに答えよ。

A ちゃん(生後 4 か月 0 日、女児)は、4 か月児健康診査の受診のために母、兄(3 歳)とともに来院した。問診では、A ちゃんの出生時に異常の指摘はなく、これまで完全母乳栄養で、ワクチン接種や健康診査以外で医療機関を受診したことはないことがわかった。また母親は A ちゃんが嫌がるので、オムツ替えが難しいと話した。来院時の身体計測値は身長 63 cm、体重 7,000 g、頭囲 47 cm であった。

50 A ちゃんの診察時に確認すべきなのはどれか。

1. お座りの可否
2. 乳歯萌出の有無
3. ハンカチテスト
4. 股関節開排制限の有無

51 A ちゃんの診察では特に異常所見は認められなかった。その後、母親から助産師へ「上の子が一緒の生活で、A の生活リズムをどのように整えていけばいいか分からない」という相談があった。

助産師の母親への助言として適切なのはどれか。

1. 夜間に人工乳を併用する。
2. 夜間は 3 時間おきに授乳する。
3. 夜間は寝室内を明るくしておく。
4. 兄の就寝時に一緒に就寝させる。
5. 決まった時間に離乳食を食べさせる。

52 健康診査の最後に事故予防の指導をしようとしたところ、母親から「上の子の時にも聞いたので大丈夫です」という発言があり、急いで帰宅したい様子が見られた。限られた指導時間で、兄との関連から最も注意を促すべき事故はどれか。

1. 火 傷
2. 窒 息
3. 溺 水
4. 転 倒

次の文を読み 53～55 の問いに答えよ。

Aさん(39歳、アルバイト)は、3年前からパートナーと同居しはじめたが入籍はしていない。2年半前に流産し、その後、避妊をせずに性交を行っているが、妊娠しない状況が続いている。Aさんは、そのうち子どもができるだろうと考えていたが、40歳の誕生日が近づき年齢を意識するようになってから、焦りのような不安な気持ちになった。Aさんは、市の不妊専門相談センターを訪問し、助産師に「流産した後、妊娠しません。子どもが欲しいと思っているのですが、私の年齢で自然な妊娠は無理なのかと心配です」と話した。

53 このときの助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 不妊治療の費用について説明する。
2. 妊娠の年齢と流産率の関係について説明する。
3. 不妊症には様々な原因があることを説明する。
4. 高年齢なので不妊治療が必要であると説明する。

54 Aさんは、40歳の誕生日に不妊治療の開始を決断した。2人で生殖補助医療の指定医療機関のクリニックを受診したところ、パートナーが乏精子症と診断された。パートナーは気持ちが落ち込み、すぐに治療を開始することができなかった。半年後、精子を精巣から採取する治療を経て、顕微授精で妊娠が成立した。Aさんは、「特定不妊治療費助成を利用したいのですが、私は申請できるのでしょうか」と助産師に話した。Aさんの住む居住地の特定不妊治療費助成制度は、国の要件に準拠して実施されている。

特定不妊治療費助成制度の説明で正しいのはどれか。

1. 「顕微授精と男性不妊治療のいずれも助成対象なので申請できます」
2. 「申請前にカウンセリングを受けることが必要です」
3. 「40歳未満でないと申請することができません」
4. 「出産後に申請しなければなりません」

55 Aさんは妊娠中期に妊娠糖尿病と診断されたが、食事療法で血糖コントロールはできている。妊娠36週の妊婦健康診査時、Aさんが「実は、妊娠が分かったころに、彼(パートナー)は仕事を解雇されてしまい、ふさぎ込んで実家に帰ってしまいました。今、私は1人で生活しています。これから生活していけるのか心配です。妊娠しなければよかった」と話す。担当した助産師は、保健センターと連携した方が良いと判断し、Aさんに保健センターに情報提供することについて同意を求めたが拒否された。

このときの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. パートナーと児の養育について話し合うよう勧める。
2. 次回の妊婦健康診査まで経過をみる。
3. 出産扶助が利用できることを伝える。
4. 地区担当保健師に情報提供する。

